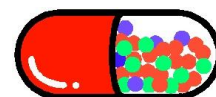


# <センター通信 9月号>



## ～「お薬手帳」について～

中津川市地域総合医療センター 船橋浩一

皆さんは病院や診療所を受診される際に「お薬手帳」を忘れずに持っていらっしゃいますか？

病院の外来で「えーっと、確か朝に白い薬が2つと・・・、寝る前に赤いのが・・・、あと粉薬も・・・」といった話をされたり、ドサッと新旧入り混じった薬の袋を見せて下さったりする患者さんは稀ではありません。入院患者さんの内服薬を調べてみると、複数の医療機関から同様の薬が重複して処方されていたという事も時々見られます。

お薬は組み合わせによって効果が弱まったり、強まったりする事がありますし、極端な場合には命に関わる副作用につながる場合もあります。患者さんの現在の病状をより正確に把握し、安全かつ有効な薬物治療を行うのに、現在処方されているお薬の情報を正しく教えて頂くことはとても重要です。



お薬手帳には、患者さん自身の既往歴(これまでにかった病気)、副作用歴、アレルギー歴などを記入するページもあります。これらの基本情報をお薬手帳に書いておけば、初めて診察する医師にも漏れなく、よりスムーズに患者さん自身の情報を伝える事ができます。

また、災害時にもお薬手帳は役に立ちます。東日本大震災のときには、被災して避難所で巡回診療を受けたり、避難にともない受診医療機関を転々と変えざるを得なかったりする方も多くいました。病気によっては内服薬を急に中止することが命に関わる患者さんもいます。お薬手帳に必要な情報が記載されていれば、緊急時でもより迅速に、間違いなくお薬を続ける事が出来るのです。万が一の避難の際にはお薬手帳も忘れずに。

このように便利なお薬手帳ですが、処方した医療機関ごとに別々のお薬手帳を持っていたり、新旧のお薬手帳が混在していたりして、最新の処方を把握するのが難しい患者さんも時々いらっしゃいます。

自分自身の健康を守るため、お薬手帳を見れば自分の健康史が分かるくらいに、お薬手帳の情報を整理してみましょう。院内処方の診療所でもらった処方明細の紙、ドラッグストアなどで買った市販薬の名前なども、お薬手帳に貼ったり、メモしたりすると良いと思います。

受診の際には保険証や診察券に加えて、「お薬手帳」もぜひ忘れずにお持ち下さい。

